

鹿島灘はまぐりの資源状況

鹿島灘はまぐり（以下、はまぐり）は大洗以南の本県沿岸漁業の重要対象種です。その資源量は、数年に一度おこる大規模な発生に支えられています。現在の資源は、H31 年（R 元年）以前に生まれたはまぐり（以下、H31 年以前の年級群）と R2 年級群、R4 年級群を主体に構成されています。

水産試験場では、はまぐりの資源状況を評価するため、漁業調査指導船「せんかい（4.9 トン）」による採集調査を行っています。今年の調査は、大洗町から神栖市にかけて約 4 km 間隔で設定した 18 地先の 91 定点（距岸 200～1,600 m）において、5～11 月に実施しました。各定点では調査用小型貝桁網（桁幅 56 cm、爪間隔 24 mm）を最大 10 分間曳網し、曳網面積当たりの分布密度を求め、鹿島灘におけるはまぐりの資源個体数及び資源重量を推定しました。

（１）地先ごとのはまぐり平均分布密度

殻長 70 mm 未満のはまぐりは、大洗町浜欠（40HL 南）の密度が最も高く（12.3 個/m²）、ほかにもサンビーチ南（40HL 北）、銚田市滝浜、鹿嶋市明石、平井にも高密度（2.0 個/m²以上）に分布していました（図 1）。殻長 70 mm 以上のはまぐりは、鹿嶋市明石、平井、神栖市松下、波崎といった地点に高密度に分布していました。

昨年と比較すると、密度の高い地点は大きくは変わらず、全体的に密度が高くなっている様子が確認されました。

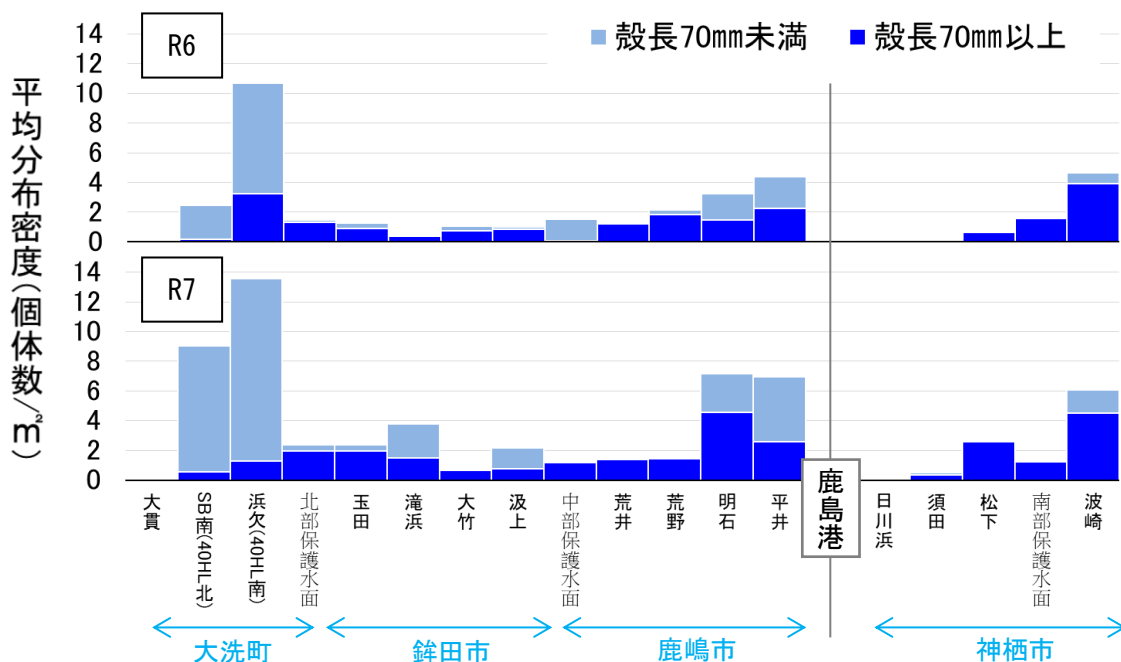


図 1 地先ごとのはまぐり平均分布密度

(2) 殻長組成

調査で採集されたはまぐりの殻長組成は、殻長 66mm をモードとする R2 年級群が最も多く、それより大きい殻長 76mm 以上の H31 年以前の年級群も採集されました（図 2）。また、昨年は 30mm 程度であった R4 年級群は、殻長 52mm 前後に成長しました。

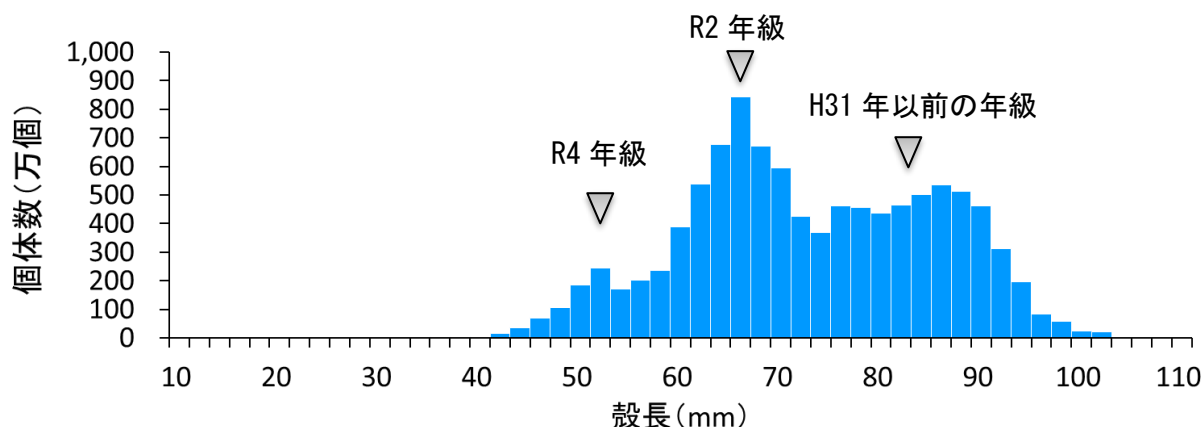


図 2 はまぐりの殻長組成

(3) 鹿島灘全体のはまぐりの推定資源量

以上の調査結果から、R7 年の推定資源個体数は 10,317 万個、推定資源重量は 10,368 トンで、H13 年以来 24 年ぶりに 1 万トンを超えました（図 3）。前年（R6）の推定資源量（資源個体数 5,973 万個、資源重量 6,383 トン）と比較すると、個体数、重量ともに大きく増加しました。資源が増加した理由としては、R4 年級群が成長し漁場に加わったこと、成長した R2 年級群の個体重量が増加したことが考えられます。

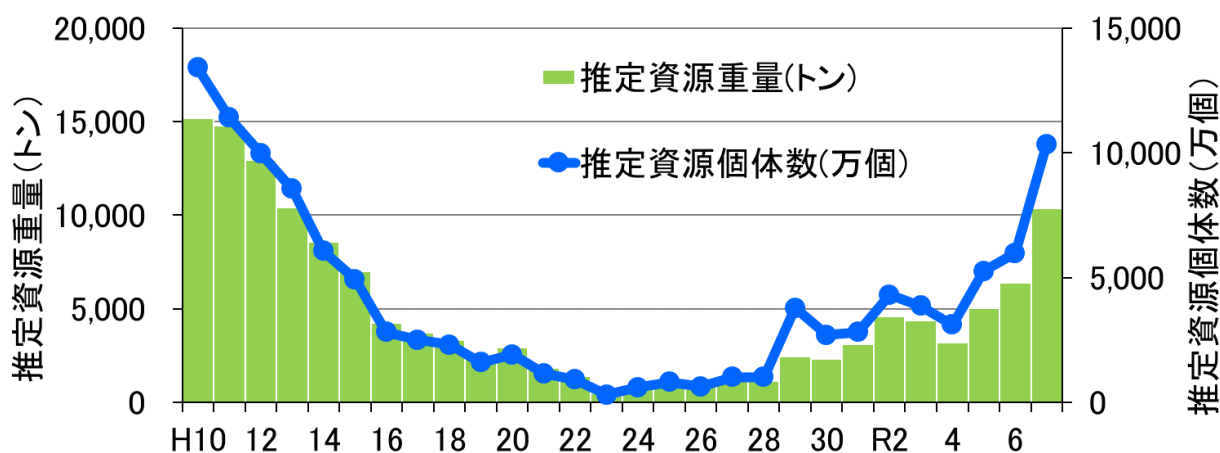


図 3 はまぐりの推定資源量の推移

これまでのはまぐりは、漁業調整規則による漁具の制限等のほか、輪番制やプール制といった漁業者による自主的な資源保護の取組が行われてきました。その努力の結果、資源は順調に増加してきています。今後は、増えた資源をいかに有効に利用するかが課題となります。

水産試験場では、資源を大切に守りながら効果的に操業できるよう、引き続き資源評価などを通して漁業者の皆さまをサポートできるよう取り組んでまいります。

（定着性資源部 多賀 真）

【次回予告】令和 7 年 12 月 5 日発行の水産の窓は「今季のマダコ漁の予測」を予定しています。